

木造阿弥陀如来立像(一運寺) 1 軀

木造阿弥陀如来立像

もくぞうあみだによらいりゅうぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品[彫刻]

所有者

宗教法人 一運寺(いちうんじ)

所在地

大阪市住吉区住吉 2

紹介

法量：像高 79.5cm



寛永 9 年(1632)に原本が記されたと考えられる『一運寺縁起』によれば、一運寺は聖徳太子の創建で、天正 14 年(1586)に本誓存寧が再興し、寛永 8 年(1631)に広誉龍哲が本堂を再建したという。

脇陣にまつられる 2.5 尺の阿弥陀如来立像は、安阿弥陀様をとる玉眼嵌入、漆箔像である。衣文が複雑で宋風を顕著に示す。制作年代は 13 世紀末から 14 世紀前半、鎌倉時代末期と考えられる。

江戸時代の『一運寺縁起』では伝教大師作と伝承され、古像として認識されていたことがわかる。